

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名

香 川 県

学校の概要

学校名	大野原町立大野原中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	3	1	1 2	2 7
生徒数	1 4 0	1 2 9	1 1 4	1	3 8 4	

研究の概要

1．研究主題

基礎・基本の定着を図り、確かな学力を育てる授業づくり

2．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・2年生・数学

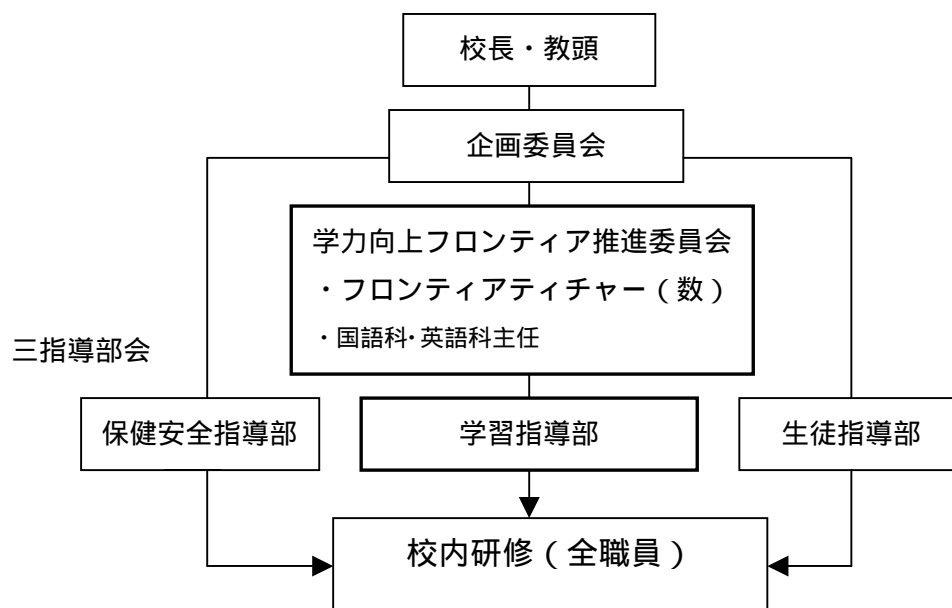
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であり、学習状況調査で観点別に見ると「数学への意欲・関心」「数学的な見方や考え方」が他の観点に比べて低いため。

(2) 年次毎の計画

平成 15 年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業における習熟度別学習の取り組み ・基礎・基本の定着を図るためのドリル学習のあり方 ・学習意欲を高めるための評価 <p>研究の見通し</p> <p>少人数授業の中で、一人一人の生徒との人間関係を大切にし、本時の基礎・基本を明確にしたり、指導方法の工夫を行い、生徒の実態に応じた習熟度別学習を取り入れることによって基礎・基本が定着し、学習意欲も増し、学力向上が図れるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業におけるコース分け・指導方法 ・小中連携（授業参観） ・視点生徒の変容 ・ドリル学習のあり方 ・校内検定の取り組み ・学習規律の確立 ・校内評価カードの利用
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業における習熟度別学習の工夫 ・基礎・基本の定着を図るためのドリル学習・学習規律のあり方 ・学習意欲を高めるための評価の仕方 <p>研究の見通し</p> <p>小中連携を図り、小学校でのつまづきを把握したり、中学校の学習内容を小学校の先生が知ったりすることにより、生徒の実態に応じた指導方法の開発ができ、学力の向上が図れるであろう。また、学習規律などの基本的な習慣が身に付けば、落ち着いた雰囲気の中で授業展開を行うことができ学習意欲も向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>数学・英語・国語の3教科を中心に全教科において研究を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数における指導方法（数学・英語） ・小中連携 ・ドリル学習のあり方 ・校内検定の取り組み ・学習規律の確立 ・評価カードの利用
----------------	--

(3)研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

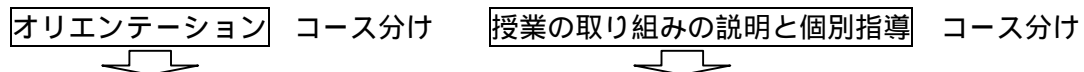
(1) 少人数授業における習熟度別学習の取り組み

生徒に「どんな授業形態が好きか」という質問に 少人数授業（70.4％）、一斉授業（11.2％）両方（18.4％）と答えている。その理由としては、 分かるまで教えてくれる。 質問しやすい。 自分の意見が言いやすい。 発表しやすい。 人にじゃまされずに自分で思い切り勉強することができる等である。このことから「生徒の少人数授業を好み、数学を好きになるうという気持ち」を大切に授業を組み立てていった。

基礎コース	応用コース
生徒の考えが発表できる場の設定 （班活動を中心に） 視点生徒の対応 ワークシートの利用 操作活動などの数学的活動や 小学校の内容 を取り入れた授業実践	生徒の考えを伸ばす授業 （生徒の発表を中心に） ワークシートの利用 ペア学習 数学的思考を取り入れた問題に挑戦

コース分けについて （2年数学：図形の性質と合同・三角形と四角形）

生徒の得意分野や不得意分野を考慮し、各章毎に基礎コースと応用コースに分ける。その章の内容などの説明を聞き、前章の反省や自分の評価を行い自らコースを選択する。ここでは、2年数学の図形学習におけるコース分けを紹介したい。



先輩からのメッセージ 小学校や中1での
既習事項やテスト 少人数授業カードに記入

全体に詳しく授業内容の説明
基礎コースの生徒に2人教師で詳しい情報提供

この結果、コース分け で基礎コース（75%）・応用コース（25%）だったのがコース分け では基礎コース（56%）・応用コース（44%）へと変化し、自分の選んだコースはあっていると答えた生徒が全員だった。また、先輩からのメッセージは大変参考になり生徒に強い学習意欲を与えた。生徒は、少人数授業を好み、教師からの資料や説明を参考に目標を持って自分のコースを決めるようになってきた。

先輩からのメッセージの例

証明は、覚えなくてはいいけないことを覚えておかないと解けない。何度も問題を読んで、図を見て、時間をかけてしっかり考えれば絶対解ける。

そのままにしておくくと数学はできないよ。復習は絶対にしたほうがよい。今大変後悔している。

先輩からのメッセージを参考にした例

先輩から「よく勉強しなければいけない。後悔するよ」と聞いたのでよく考えて決めたい。

図形は先輩が言うように難しそう。でも努力すればできると思うので応用コースにした。

指導方法の工夫について（2年数学：連立方程式の利用）

少人数授業の授業形態

生徒は、コースに分けると他のコースの様子を気にする傾向がみられ不安な気持ちになる。そこで導入は一斉に行い、本時のねらいを説明した後でコースに分かれる。近隣に少人数教室があるので移動には時間がかからない。また、復習テストや課題などは同じ内容で実施している。復習テストも課題も教師の自作プリントである。生徒の実態に合わせた内容であるので全員が80%通過することを目標としている。

基礎コースの指導方法

1時間の学習指導過程の中で生徒の学習意欲を高めるために小学校の内容の復習や4コマまんが、操作活動などを導入に取り入れている。また、一人一人の生徒に1回以上は自分の考えを発表する場を設定している。連立方程式の利用では、早くできた生徒が板書を行い、教師が説明を付け加える方法をとった。また、仲間グループを作り教え合い学習を行った。その結果、全体授業では見られなかった生き生きとした姿を見ることができ、自信を持って自分の考えを発表する生徒が増えてきた。また、板書もたくさんの生徒が競い合いながらするようになった。

小中連携（小学校の先生とTTの授業を基礎コースで行う）

今年度、小学校の公開授業を参観する機会が6回あり、授業参観を中心に小中連携を図った。また、小学校での講演会にも参加した。本校でも、4回の公開授業を行い、小学校の先生も研究討議に参加し情報交換を行った。その例として、小中交流会での中学校の授業参観を機会に連立方程式の利用（時間・距離・速さを使った問題）のところで、小学校5年の内容を学習指導過程の導入に組み入れ、小学校の先生とTTの授業を基礎コースで行った。線分図を書いたり、小学

校の先生による丁寧な解説に生徒は、普段より真剣に取り組み効果的な授業であった。生徒の反応も良好で、小学校の内容を思い出してとても楽しい授業だったとか、小学校の時にどこで分からなかったかがよく分かったなどの感想を書いている。生徒の苦手な内容だったが次時の復習テストで基礎コース85%の生徒が合格点を取っていた。あとの討議会で小学校からは中学校の授業の進め方がよく分かったとか、公式を十分に理解していないので小学校でももう少し徹底して指導しておきたいなどの意見があった。中学校からは、小学校の授業を参観して小学校のコース分けや指導方法が参考になり、小学校の内容を中学校の基礎コースで導入に取り入れたり、基礎的な力の付いていない生徒に小学校の復習をするなどの意見があり、有意義な研修が進められた。

視点生徒の変容

基礎コースの中でも学力は持っているが、自己中心的で十分に力が発揮できていない生徒を視点生徒とし生徒理解に努めている。授業中の発問の解答やつぶやきなどを記録に取り指導の参考にしている。

1学期の成績をみて「僕、数学が好きになってきているわ」等の声が聞けるようになり、保護者からも「家に帰ったら数学の宿題をしています」とか「学校での授業中の様子を話してくれませう」等のことばが聞けた。2学期の期末テストでは自己最高点でとても喜んでいていた。

【手段】	落ち着くまで授業を進めながら待つ。	視点生徒に1回以上発表ができる場を設定する。
	発表に対して必ず評価をする。	机間巡視で必ず1回以上声かけをする。
	リーダーとしての資質を持っているので班活動を行い、1回以上は班長としての仕事をさせる。	
	必ず機会ある毎に認める。	大切なことを発言すると必ずメモをしており、機会ある毎に紹介する。

オープンスクールの開催

保護者や地域の人に生徒の日々の授業の様子や少人数授業等の取り組みを直接見てもらうために自由に授業が参観できるオープンスクールを開設した。学校通信で開催のお知らせをし、学校通信でお礼と保護者の感想を記載した。参加人数は余り多くはなかったが参観後のアンケートの中に参考になる意見や感想がたくさんあった。また、地域の小学生の参加もあり熱心に中学校の授業を参観していた。保護者のアンケートで「少人数授業について知っているか」に知っている人が5月には68%だったのが12月には84%となり理解がだんだん深まってきている。

(2) 基礎・基本の定着を図るためのドリル学習のあり方

ドリル学習のあり方

ドリルは、基礎コース・応用コース共通の問題である。授業前の復習テストは本時の基礎的内容を、授業後の課題プリントは本時の基礎的・基本的内容を中心に生徒の実態に応じて作成している。また、自主プリントは、各章毎に基礎的・基本的内容を中心に基礎編・応用編の2枚を作成している。テスト前には「毎日プリント」(復習の内容)を全員で取り組む。理解できない問題などは、昼休みの質問教室を利用し、毎日2～3人の生徒が質問に来ている。課題プリントは平均して83.3%の提出率である。また、自主プリントは30枚ずつ作成すると次のプリント作

成までになくなり、次のプリントを催促する生徒もでてきている。このようにドリル学習は生徒に定着してきており、意欲的に取り組むことにより基礎学力の向上につながっている。

校内検定の取り組み

検定は定期テスト発表中に全校生に実施している。遅れて進む生徒の学習に対する意欲化を図り、全職員で取り組むことをねらいとしている。実施科目は国語・数学・英語を原則とし、他の教科については各学年で決める。合格ラインを決め合格しなかった生徒に対しては指導を行う。生徒の反応は、検定があるとテストに近いことが分かり勉強する気がわいてくるなど前向きである。

学習規律の確立

学習環境が整っていると学習意欲が増すと考え、各学年で目標を設けて取り組んできた。2学期には学校全体で取り組もうという意見があり「全校一斉に取り組もうキャンペーン」として「チャイムが鳴り終わるまでに席について授業準備をして待つ」を目標に全校生の取り組みとして2週間実践した。金銀赤のシールを毎時間各教科担任が台紙に貼り、得点化しその成果を競う取り組みである。生徒も意識を持って取り組むためスムーズに授業が始められるようになった。3学期も実施している。

(3) 学習意欲を高めるための評価

自己評価カード

全教科において生徒の自己評価カードを作り取り組んでいる。生徒は、授業を再確認する資料とし、先生からの意見を楽しみにしている。また、忘れ物や発表の様子、小テストの状況などの変化を知り反省する機会となっている。教師にとっては日頃会話が少ない生徒と会話のできる資料である。全体の研修会で他の教科のカードを参考に各教科評価カードの見直しを検討している。また、マンネリ化しているとか生徒が全ての教科で評価するので正確な評価がかけていないなど課題がたくさんあるが生徒にとっても教師にとっても実施して良かったとの意見が多い。

(4) その他

学校評価（教師による評価）において学習面では1学期と2学期を比べてみると全ての面で教師は良い評価をしている。「指導過程の工夫をしているか」(2.95 3.13)「指導形態の工夫をしているか」(3.00 3.09)「実践記録に蓄積をしているか」(2.87 2.91)「学力向上フロンティアを意識しているか」(3.05 3.22) 1～4で評価、4が最良

今年度は、学力向上フロンティアの素地作りができ、公開授業や研究の取り組みの発表や冊子などでの中間報告を行い、研究の中間のまとめができた。

生徒が教師の授業の評価を行い、教師が自分を反省する機会を設けた。その結果、全教師が課題を明確にしたり、分かる授業の工夫に取り組む姿勢がみられた。

2. 今後の課題

今年度はフロンティアティチャーの担当する「数学」を中心に研修を進め、国語・英語が準ずるという形を取った。次年度はさらに全職員で実践研究を進めたい。

研究の内容を絞り、より重点化を図るとともにデータを残し、目で見て分かる評価を行いたい。

小中連携の研究を進め、内容の関連を踏まえた教材やドリルの開発を行いたい。

職員の打ち合わせや話し合いの時間確保に努め、常に研究の方向付けや反省を行い、テーマ達成に向けて授業改善を推進したい。

生徒による教師の授業評価を継続し、反省したり評価をしながら研修を進めたい。

学力把握のための学校としての取り組み

調 査 名	調 査 目 的	実 施 内 容	時 期
進 級 テ ス ト	前学年の学習内容の定着状況の把握	5教科	4月
学習状況調査	基礎的・基本的な内容の定着状況の把握	数学・理科・英語	5月
中間テスト	基礎的・基本的内容の把握と観点別評価	5教科	5・10月
期末テスト	基礎的・基本的内容の把握と観点別評価	9教科	7・12・3月
休み明けテスト	休み中の課題プリントの内容の定着	5教科	9・1月
校内検定	遅れて進む生徒の意欲化と基本的内容の定着	数学・国語・英語	6・10・11・2月
学習の診断	基礎的・基本的な内容の定着状況の把握	5教科	2月
標準学力調査	基本的・基礎的な内容の定着状況の把握	数学・国語・英語	2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>学力向上フロンティア公開授業と討議会を実施した。</p> <p>日時：12月16日</p> <p>場所：大野原町立大野原中学校</p> <p>対象：三豊・観音寺地区小学校・中学校</p> <p>目的：学力向上フロンティア中間報告</p> <p>学力向上フロンティアの中間報告冊子（A4：84ページ）を作成し配布する。</p> <p>（三豊・観音寺地区の小学校と中学校）</p> <p>フロンティアティチャーとして研究成果普及のため年間3回の公開授業を行った。</p>
--

=====

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5 年度からの新規校		1 4 年度からの継続校	
【学校規模】	3 学級以下		4 ～ 6 学級	
	7 ～ 9 学級		1 0 ～ 1 2 学級	
	1 3 ～ 1 5 学級		1 6 学級以上	
【指導体制】	少人数指導		T . T による指導	
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】			有	無